

□台風 23 号災害と「まいづる災害  
ボランティアセンター」について

舞鶴市社会福祉協議会事務局

1. センターの立ち上げ

平成 16 年の 10 月 20 日から 21 日未明にかけての台風 23 号により本市は、昭和 28 年 9 月 25 日の台風 13 号の襲来以来、約 50 年ぶりの甚大な被害を受けました。(別表 1～3)特に、市西部の加佐地区は、立往生したバスの救出劇が報道されたように、河川の周辺部は建物、道路、農地が一面浸水し、山間部では土砂崩れと浸水により建物、農地、林地、道路が数多く被災し、住家では地区全世帯の約 4 割が被災しました。

台風の去った 21 日から、全国から大量に来られると予想されるボランティアの受け入れ体制、被災地のニーズ把握をどのように行うべきかを舞鶴青年会議所や舞鶴市と検討し始めました。その際、隣県の NPO 法

人「ふくい災害ボランティアネット」の方から、災害ボランティアセンターの設置場所、必要資材、活動する上で配慮すべき事柄等々、「センター」運営のノウハウについて様々なアドバイスをいただくとともに、大量のスコップ、一輪車、土嚢袋等の資材提供の申し出を受けました。

10 月 22 日、舞鶴青年会議所と共同で「まいづる災害ボランティアセンター」を西市街地と加佐地区の間にある FAZ 施設(貿易関連の建物)の舞鶴 21 ビルに設置することが決定し、その旨を新聞・ラジオ等のメディアとインターネットを通じて流すとともに、加佐地区の区長さんに「センター」からのチラシ(別紙)の配布をお願いするなどの広報活動を行いました。

(別表 1) 建 物 被 害

	住 家						非 住 家					合計
	床上 浸水	床下 浸水	全壊	半壊	一部 損壊	計	浸水	全壊	半壊	一部 破損	計	
東 地 区	49	157	1	3	181	391	27	8	12	47	94	485
西 地 区	378	813	0	4	384	1,579	238	13	11	164	426	2,005
加佐地区	264	195	8	75	138	680	138	30	8	60	236	916
計	691	1,165	9	82	703	2,650	403	51	31	271	756	3,406

(別表2) 道路・河川・橋梁等の被害

区分	箇所数	主な箇所
道路	333	長谷線、西方寺平線、大俣上宮津線ほか
河川	194	長谷川、下見谷川、仏谷川、中田川ほか
橋梁	19	境谷橋、秋葉橋、富室橋ほか
合計	546	

(別表3) 山崩れ・農地被害

区分	箇所			合計
	東地区	西地区	加佐地区	
農地	105	118	385	608箇所
農業用施設	136	75	258	469箇所
林道	44	43	150	237箇所
治山	43	46	169	258箇所
合計	328	282	962	1,572箇所

**まいづる**  
**災害ボランティアセンターが**  
**設置されました!**

**電話番号**

**0773(76)0722**

災害による  
個人のお家で泥の撤去など  
お困りの方、何でもお電話下さい。

**問い合わせ先**

**まいづる災害ボランティアセンター**  
本部/舞鶴市喜多 舞鶴21ビル 3F 302号  
**☎0773(76)0722**

(舞鶴市社会福祉協議会・日本青年会議所 近畿地区 京都ブロック協議会)

## 2. ボランティア活動

10月23日に事務所や活動拠点等を設置し、ボランティアの申し出・問い合わせ・ボランティア派遣の要請等の受付を開始しました。

10月24日から実際にボランティアの受け入れ・派遣を開始し、加佐地区全体と西地区の一部において、浸水家屋の床上・床下の泥かき、畳・家具等の運び出し、敷地内のゴミ、竹木や土砂の撤去、生活水路や道路更には一部農地の土砂等の撤去など、様々な活動を行いました(活動件数等は別表4のとおり)。

ミ、竹木や土砂の撤去、生活水路や道路更には一部農地の土砂等の撤去など、様々な活動を行いました(活動件数等は別表4のとおり)。

10月末の段階で被災地からのボランティア派遣要請も落ち着いてきたため、11月3日をもって「災害ボランティアセンター」としての活動を終了し、その後は社協事務局で対応してまいりました(11月28日まで)。



(別表4) ボランティア数と活動件数

月 日	ボランティア数	活動件数	月 日	ボランティア数	活動件数
10/24 (日)	269	33	11/ 2 (火)	130	19
10/25 (月)	114	20	11/ 3 (水)	158	17
10/26 (火)	146	31	11/ 4 (木)	4	1
10/27 (水)	177	38	11/ 5 (金)	5	1
10/28 (木)	238	44	11/ 6 (土)	12	1
10/29 (金)	354	37	11/13 (土)	22	2
10/30 (土)	716	49	11/14 (日)	34	3
10/31 (日)	824	51	11/28 (日)	6	2
11/ 1 (月)	101	13	合 計	3,310	362

※「活動件数」には、「〇〇地区一帯」として、バス単位で派遣したものも含まれるため、活動を行った家屋・道路・水路の件数とは一致しない。

### 3. 課題と成果

一連の活動を振り返って、難しかった事は今回の災害における主な被災地が市街地ではなく、市西部の過疎地として指定されている約 106 km<sup>2</sup> の広大な山間部であった為、災害ボランティアセンターの受付場所から実際に作業を必要としている被災地まで、かなり距離があり、ボランティアの送迎に手間取った事が挙げられます。

谷ごとに分かれる集落地に至る山道は狭峻な箇所もあるため、原則的にボランティアが個々の自動車で被災地に赴くことは避け、センターから送迎と資材運搬を行うこととしていましたが、車両の確保が非常に難しく、中でも小回りの利くワゴン車が思う様に調達出来ませんでした。

センターから現地へのピストン移動に関しても、往復するだけでもかなりの時間を要し、さらに、ボランティアの送迎や資材運搬を担当したスタッフが、被災地である加佐地区の地理に不案内であったことから、

ボランティアの方々を長時間お待たせするといったこともありました。

それから、被災地では災害による影響で携帯電話がほとんど使用出来なかったため、青年会議所のルートで無線を使用しましたが、広域のため使用出来ない区域もあり、また、誰でも傍受できることから、プライバシー保護の面で課題がありました。

また、災害ボランティアセンターを立ち上げた初動時に被災地からのニーズが少なく、せっかく遠方から来ていただいたボランティアの方に他市のボランティア救援に回っていただいた事もありました。

やはり、「自分の事は自分でやりたい」という気持ちが強かったのかも知れませんが、センターとしてニーズの掘り起こしという大きな課題は残りました。

その他、ボランティアセンターの課題としては、要支援者(高齢者、障害者など)への配慮が十分に出来なかった事や、ボランティアを受け付けてから、被災地まで送り出

す時に被災地の状況、作業内容等の説明が十分に出来なかった事があります。

また、行政との被災状況や被災地ニーズに関する情報の交換が不十分で、通行止めになっている道路等の情報が、しっかりと把握出来なかった事も挙げられます。

参加されたボランティアの傾向としては、舞鶴市内からの参加者が思ったよりも少なく、全体の 1/3 以下でした。センターを通さずに個人的な関係などから直接手伝いに行かれた市民も少なからずあったと思われませんが、センターとして市民全体に対する呼び掛けも課題として残されたのではないかと思います。

成果としては、舞鶴市社会福祉協議会として、初めて「災害ボランティアセンター」を設置した事によって、舞鶴青年会議所等の多くの団体との繋がりが密接になった事や日頃からの防災に対する意識が強くなったことがあります。

#### 4. おわりに

災害ボランティアセンターを閉鎖して 8 ヶ月が経過し、改めて自分達の活動を振り返ってみると、「もっとこんな事が出来たのでは?」、「こういったやり方があったのでは?」という点ばかりが浮かんできます。

舞鶴市社会福祉協議会としても、こういった反省を踏まえ、課題を整理するとともに、関係団体とともに災害時に備えた日常的な体制づくりに取り組んでいきたいと考えています。

最後に、ご協力をいただいた多くのボランティアの皆様やスタッフとしてご協力いただいた他市町村の社協関係者並びに物資を提供いただいた様々な組織の方々のご厚意に改めて感謝いたしますと共に、被災された皆様が一日も早く、元の快適な生活に戻っていただける事を心からお祈りします。